



会長	石橋 信雄	青少年奉仕	小井田和哉
副会長	正部家光彦	幹事	中村 稔彦
クラブ奉仕	正部家光彦	会計	山村 和芳
会長エレクト	正部家光彦	会場監督	築館 智大
職業奉仕	道尻 誠助	直前会長	橋本八右衛門
社会奉仕	深澤 隆	副幹事	増田 敏
国際奉仕	紺野 広	会計補佐	松本 剛典

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・公共イメージ向上委員長 渡辺 孝 同副委員長 峯 正一
 同委員 宮下 悟 同委員 松林 拓司

国際ロータリー会長メッセージ — 2025~26 — 八戸ロータリークラブ スローガン

よいことのために手を取りあおう

感謝し、祝い、新たな一歩となる道標へ

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツォ

八戸ロータリークラブ会長 石橋 信雄

1 月 は 職 業 奉 仕 月 間 で す

第 3 3 7 9 回 例 会

2 0 2 5 . 1 2 . 1 7

▶ ゲ ス ト

八戸工業高等専門学校 校長 土屋範芳さん

▶ ビジター

東京東江戸川ロータリークラブ

パストガバナー 嶋村文男さん

会 長 要 件 石橋 信雄 会長



冬本番の寒い日が続いています。また風邪やインフルエンザも流行っているようですので、皆さんお身体ご自愛くださいますようお願いいたします。

ます。

政府が発表しました青森県後発地震東方沖地震情報の期限は16日午前0時に終了しましたが、地震のリスクがなくなったわけではないようで、対象期間は過ぎても引き続き注意と備えを準備するよう呼びかけられています。先週の例会で、防災士の築館さんからお話をいただきましたが、わたしごとではございませんが、さっそく持病の薬を二か所で保管する対策をした次第です。地震が発生してから1週間が過ぎ、さまざまな被害状況が報道され

ています。被害を受けられた皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

一昨日ご案内いたしました、24日に開催されますクリスマス家族例会の会場が変更となります。例会場である八戸グランドホテルさんは地震の影響により会場の使用が困難となりました。現在復旧に向けて調査検討をされているようで、年内、1月中はグランドサンピアさんにお世話になることになりました。グランドホテルさんとは今後復旧について情報をいただきながら進めていきたいと思っています。なお、八戸ロータリークラブの事務局に関しては従来通りグランドホテルです。メンバーの皆様におかれましては、どうぞご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の例会は八戸工業高等専門学校 土屋範芳校長の卓話です。本日も突然でしたが、嶋村さんと一緒に校長先生にお会いしに参りました。プロフィールがお手元にあると思いますが、たいへん興味深い南極大陸の話など聞きたいと思いましたが、その話は次回にということで、きょうは高専の今の取り組みについてお聞きするような形で卓話をお願いしています。たいへん楽しみにしておりますの

で、どうぞよろしくお願ひいたします。

今回、この卓話が実現しましたのは、本日お越しにいただいている東京東江戸川ロータリークラブの嶋村パストガバナー様からご紹介いただいたことがきっかけとなっています。土屋先生と嶋村さんはモンゴルでの交流があり、今回の企画となりました。嶋村さんが6年前も八戸ロータリークラブの例会にお越しにいただいております、そのときは築館智大さんが会長、わたしが幹事のときでした。個人的にも嶋村さんとはたいへんご縁があります。嶋村さんの奥様とわたしの姉が大学の同級生で、たいへん親しくさせていただいたこともあり、いろいろな場面でわたしも嶋村さんからお声がけをいただいております。昨日からお越しにいただきましたので、築館さん、小林さん、中村幹事、わたしの姉と懇親を深めさせていただきました。余震の続く中ですが、ようこそ八戸へお越しにいただき、ありがとうございます。

今月はロータリーの友を紹介するタイミングがないものですから、委員会に代わりましてわたしから簡単にお知らせいたします。

冒頭のR I 会長メッセージでは、メンタルヘルスについて語られています。世界では7人に一人が何らかの精神疾患を患っているそうです。心の健康と幸福を支える強力な方法としてロータリーには友情があるとフランチェスコ会長は発信されています。

また縦組みの「この人を訪ねて」では、青森モーニングの坂井哲博さんの手術室で患者と向き合う麻酔科医の孤独と信念という特集記事もあります。どうぞご一読いただければと思います。

ロータリーの友といひますと道尻誠助さんですが、今回も柳壇のコーナーで天地人の地で紹介されています。「薪を積む 冬が来るぞと 父の声」たいへん心温まる素晴らしい句かと思ひます。本当におめでとうございませう。ぜひロータリーの友12月号を開いていただき、ご一読いただきますようお願ひいたします。

きょうも皆さんとお会いできてたいへんわたし自身救われている部分があります。いろ

いろな心配事がありますが、ご縁や友情を大切にしたいものと改めて思ひた次第です。

表彰：

「ロータリー希望の風奨学金」感謝状贈呈
紺野 広さん

感謝状

国際ロータリー第2830地区
八戸ロータリークラブ 紺野 広 殿

貴殿は東日本大震災で被災された学生に対する教育支援プログラム

3.11ロータリー希望の風奨学金プロジェクトに多くの支援金をお送りくださいました。

支援金はすべて被災学生が大学生、短大生および専門学校生としての奨学金として使われ、卒業するまでを見守り支えて参ります。

貴殿の温かなご支援が次世代を担う被災学生に前を向く力を与えてくださいます。

次代を担う学生諸君が進学の希望を断つことなく、未来への夢を膨らませること、

それは日本のとりわけ東北の真の復興を支える大きな力となるものと確信いたします。

ここにそのご厚情に対して、心より感謝の意を表します。

2025年12月4日

3.11ロータリー東日本大震災青少年支援
連絡協議会 会長 宇佐美 透

東京東江戸川ロータリークラブ

R I 2580地区パストガバナー 嶋村文男様



2580地区の3年前のガバナーをさせていただきました嶋村文雄です。よろしくお願ひいたします。まずは8日に発生しました地震で八戸の皆さんもたいへんご苦労し、また被害を受けている方が多いと聞いています。まずはお見舞いを申し上げます。

その中、来ることにどうかなと思ひていましたが、石橋会長とお話をして、先程石橋会長からご紹介があった通り、八戸高専の校長先生をぜひご紹介したいということで、きょう時間を取っていただきました。まず皆さんに感謝申し上げます。

実は先生とは今年の8月31日にモンゴルのウランバートルで、後ほど出て来るかも知れ

ませんが、米山学友でわたしの同級生のジャンプ・ガルバドラッハさんが新モンゴル学園という日本式学校をしていて、そこで先生が提携しているということがあり、ぜひ会ってくださいということで土屋先生とお会いしました。米山など何かロータリーで支援できないかということで話をいただいた中で、わたしは米山奨学会の学友委員会委員をやっております、地区で決めれば高専でも指定校になれるという話を聞きましたので、ぜひ一度お会いしていただきたいということで、旧知であった石橋会長にお願いして、このような形になった次第です。

先ほど学校にも石橋会長とお邪魔しまして、今は300人が寮に住んで、28人が留学生も来ているということです。先ほど先生からもぜひ八戸に根付いた高専の皆さんとロータリーの皆さんの交流の機会をとということでしたので、今日はそういうこととお話をしてくれると思います。ぜひ卒業生もいらっしゃるということでしたし、いろいろな形で八戸高専の皆さんとロータリークラブが手を取り合って、よいことができればと思っています。将来有望な留学生だけでなく、卒業生が少しでも世界のために活躍できることを祈ってご紹介させていただきたいと思います。きょうはお世話になります。よろしくをお願いします。

幹事報告 中村 稔彦 幹事



○クリスマス家族会 会場変更について

グランドホテルさんが1月いっぱいまで営業停止ということになっていますので、それに伴い来週のクリスマス家族例会はグランドサンピアで行います。バスは18時から八戸市庁前から出ますので、ご利用の方はどうぞ。出欠がまだの方は、欠席の方もメールなどで出していただければと思います。

○1月例会会場変更について

1月例会すべては昼の例会、夜の例会もグランドサンピアでの開催となります。例会出

席についてはご欠席の方も出していただければと思います。

○2月14日に八戸東ロータリークラブ65周年記念式典があります。そろそろ締め切りですので、ご出欠をお願いします。できればクラブとして30名程度は出席したいと思っていますのでご協力をお願いします。

○会員のお祝い

- 会員誕生日 田守拓己・松本剛典
種市良雄さん
- パートナー誕生日
石橋堅大・木村浩之・小倉和也さん
- 結婚記念日 石橋堅大さん

委員会報告

親睦・会場委員会 小田山紀暢委員長



○ニコニコボックスの報告
東京東江戸川RC

嶋村文男さん

こんにちは。今日は6年ぶりのメーキャップです。今年8月でモンゴルで出会った八戸高等専門学校の土屋範芳校長先生をご紹介します。今後とも宜しくお願いします。

- 誕生祝 松本剛典さん
- 奥様誕生祝 熊谷清一・木村浩之
石橋堅大さん

石橋信雄 } 土屋先生、嶋村さんようこそ
小林幹夫さん } お越し下さいました。本日は
よろしくをお願いします。

橋本八右衛門さん 今年も残り2週間。最後まで元気に飲みまくりましょう。

小井田和哉・小田山紀暢さん ニコニコデー

会報・公共イメージ向上委員会

渡辺 孝委員長



連日のように動画を流させていただいています。12月26日まで連日のように動画を流させていただきますので、よろしくをお願いします。

石橋堅大さん

きょうは会員としてではなく、本日は一般社団法人八戸クラブ理事としてこの場に立たせていただいています。卓話でもお話ししましたが、わたしは中学校アイスホッケー八戸クラブの指導をしています。このたび全国大会に出場することが決定しました。これも保護者、スタッフのみならず応援してくださっている皆さんのお陰だとたいへん感謝しています。

そこで開催地が群馬県伊香保になりますが、



「
」
きょうはロータリークラブにお招きいただきましてたいへんありがとうございます。わたしにとっても大変名誉なことだと思っております。石橋会長、島村さんには本当にお世話になりました。この場を作っていただいて感謝申し上げます。きょうは限られた時間ですが、少しお話ししたいと思います。南極の話が期待されているようですが、きょうは予定していなかったのです。違う話をさせてください。

プロフィールですが、わたしは仙台が長かったのです。生まれは信州です。1960年に生まれまして大学は仙台でしたので、だから伊達政宗をずっとみてたわけです。わたしは工学部卒業ですが、実際は地質学をやっていました。専門は何ですかといわれると地質学と答えるようにしています。南極に3回行っています。その後、年をとってくるとマネジメントをやれということで経理課長をやっていたので、4回目を行こうとしていたらそんなことを言っている場合じゃないと言われ、首を掴まれて南極には行かせてもらえなかった。心は4回行ったつもりですが、残念なことになっています。

2023年から八戸に来ています。今年で3年目ということになります。高専の校長は任期

経費高騰のおり、遠征費が不足していますので、皆さまのご協賛を頂戴したいというお願いのため、この場に立たせていただいています。お手元にお渡ししていますが、個人では1口3,000円から、法人様は1口10,000円から、こちらに何卒ご協賛いただければと思います。創部8年で初めての全国大会です。こどもたちのため、また氷都八戸のためにしっかり頑張ってまいりたいと思いますので、何卒ご協力をお願いいたします。

八戸工業高等専門学校 校長 土屋 範 芳 さん

がはっきりしていないところがありますが、まだしばらくは八戸でお世話になるかなと思っています。最初に八戸に来たときに、八戸の方に青森というのは南部と津軽の仲違いが昔からあると聞いてますが、と最初の頃に聞いたときに皆さんにこにこと笑って、この世の中でそんなことがあるわけじゃないですかと皆さんから聞きました。3年目になりました。多くの方々と2回、3回と宴を囲むと、津軽はだめなんだよ。そうなんだと思っています。

一番最初に洗礼を浴びたのは八戸に来ていろいろな手続きをしなければいけないので、八戸市役所に行こうと思って、ナビに「はちのへしやくしょ」と入れたら、何度押しても出て来ない。時間もないので中心街に行ったら何とかなるだろうと思って行ったら、なんとかなった。その後、八戸の総務部長さんが表敬で来られてその話をしたら、八戸は“市庁”というんですね。何で“市庁”というんですか？ 青森が県庁だから、われわれは市庁。ああ、そうなんだと感動しました。八戸も3年目になるとだんだん本音のことが聞けるようになって楽しくなってきました。

きょうは高専のことをお話ししたいと思います。皆さんご存じの通り、高専を八戸に呼ぶということ自体も青森との綱引きがあっ

たということを赴任当時、その時の県議会で何が行われたかという新聞記事を読まされて、すごい綱引きがあったんだな、と歴史を聞きました。

ご存じのように高専は中学を卒業した15才の段階から5年の一貫教育を最初から行っています。昭和38年に設立されています。八戸高専は青森・八戸のゴタゴタ？（綱引きがあつて）1年遅れています、第1期に比べると。2年前に60周年を終えたところです。

5年の一貫教育があつて、その後、準学士の称号がもらえるわけですが、昔は5年の間に大学とほぼ同じ専門、専門に関しては大学とほぼ同じ知識レベルまでいくというのが高専の目標だったわけです。それは今でも変わりません。

でも今はそれにプラス2年の専攻科というのができました。そうすると5+2の7年間。つまりそれは高校3年、大学4年の7年間と同じですから、現在は八戸で大学卒と同じ資格をもらうことができます。そういう意味では青森県に国立の学校というのは弘前大学が津軽にありますが、南部地域には八戸高専があつて、工学系に特化していますが、大学と同じ学士の称号がもらえるということになります。このシステムで60年間以上動いてきています。

現在の高専の定員は実は設立当時から変わっていません。本部の定員は160名、全体で900名の定員を持っています。この少子化の状況下で160名の定員を維持していることが、今はいろんな意味で大変さがありますが、それだけ社会のニーズがあると考えています。

高専全体は15才人口の0.88%しか収容人員がありません。つまり1%以下しか入ることができない、ある意味ではレアな学校ではありますが、これがこれからどうやって生き延びていくか、社会に受け入れられていくかはひじょうに重要であると共に、八戸にはこの全国で1%しかない収容人員のない高専があつて、15才の若者を受け入れることができる、ある意味地の利があるとわたし共は考えています。

これが青森県のどこから来ているか。設立当初は南部と津軽の両方から半々ずつきていたと聞いています。ところが現在はほぼ50%は八戸と三戸郡です。三八上北から75%の学生が来ています。プラス岩手県北部が4.4%。岩手県は一関に高専があるので、南にあることもあり、岩手県北部から一定数の学生が来ています。ところが、津軽地域からはほぼ来ていません。今、五所川原・津軽1.7%とありますが、これは5年生です。5年間全部合わせて1.7%なので、実は昨年の入学者は0です。完全に津軽地域からはほぼ来ない状態になりました。

わたしはなぜそんなことになったのだろうと思ひまして、今年の夏に随分と五所川原や津軽地域の中学校にお邪魔させていただいて、是非とも八戸高専に手を挙げさせていただけないかと中学校の校長や進路指導部の方にお話ししましたが、まず最初のひとことで、わたしは直観しました。八戸高専から来ました。ああ、遠くから来て本当にご苦労さまです、という挨拶から始まる。つまり、ものすごく遠いんだな。この人たちにとって八戸はすごく遠いという印象を持たれているということを感じました。ただ、残念なことに現在津軽地域からの進学者は極めて少ないというのが八戸高専の現況です。

八戸高専はどういう構成になっているか。昔は機械、電気、工業化学、土木。これは何となく高度経済成長時代の産業としては何となく理解できるような構成になっています。今は名前が変えてあります。機械・医工学コース。“医工学”という名前を入れました。例えばカテーテルはどうやって入れる？

機械はどう作る、ファイバーで胃カメラはどうやって作る、先端部分にあるカメラはどうやって作る、という話に入れ込んで、皮膚がんをどうやって検診するか。治すのは医者ですが、見つけるのは技術者ですから。どうやって見つけるかというような研究をしています。医工学を入れたことによって、昔は完全なる男子の牙城だったところに、今は10%ですが女子が入ってくるようになりました。

人気も出てきました。

電気は電気に情報がついています。当然のことながら情報が入ってきますが、われわれ八戸高専としては電気がわかる、つまり回路がわかる情報技術者を育てようというのがポリシーです。何でもかんでもAIに任せて、AIのプログラムを作ればいいというのではなく、電気の基礎がきちんとできる、そういう技術者を作ろうということで電気情報工学と電気を外していません。

工業化学はマテリアル・バイオ工学という名前に変わっています。基本的に何かをやるうとしても材料ができなければできません。マテリアルを作る、基本的には化学です。バイオ工学コースは今は発酵の分野です。味噌、醤油、ワイン、日本酒、この手の類の研究をしているのがマテリアル・バイオ工学です。環境都市・研究デザインコースは土木系、土木という言葉が人気がない時代がありましたから、たぶん多くの学校が環境という名前をつけている。環境都市という土木系から建築デザインというところの2つ。八戸高専で二級建築士が取れて、一級建築士の受験資格がもらえるところまで八戸でできます。

この4つのコースで動かしています。これは半々と読むようになったのは大谷さん。本当は大谷さんの前に半々と言っていました。大谷さんが50-50と言いだしたので、わたしも50-50と読むようにしています。就職と進学がだいたい50対50のほぼほぼ半分です。コースや年度によって多少の上がり下がりがありますが、ほぼほぼ半分が就職し、ほぼ半分が進学します。

進学というのはどうやって進学するかというと、5年終わった後に大学の3年生に編入。それから専攻科まで行くと大学卒と同じですから、そこから大学院に行く人。こういう人を含めると全部で半分が行きます。ここで進学先のほとんどが研究系の、いわゆる難しい大学に入っていきます。来年度4月から東北大学工学系、理系大学院に入るのは13名です。この13名という数字は青森高校、弘前高校、八戸高校の三大進学校が青森県にはあ

りますが、その東北大学進学者よりも多い数になっているので、どちらかというとな研究者指向の強い人たちになります。一方で就職する人たちに対してもわれわれは手厚い支援をしていますし、ものすごく就職倍率が高く、産業の担い手になっています。

これは八戸のグーグルアースですが、皆さんご存じのように臨海部分には八戸は昔から重工業地帯がずっとあります。元々は東北電力八戸火力ができ上って、電力供給ができるようになっていろんな工場ができました。三菱製紙、大平洋金属、八戸製鉄などいろいろできてきました。この重工業地帯に行く人と内陸部とくに北インター周辺にあるハイテク産業に就職する人たちが、地元就職する人は実は全体の10%くらいしかいませんが、それは数の数え方で実際には東京本社、愛知本社に就職して八戸に赴任する人がいるので、実態として八戸、青森県に就職、いる人は15%くらいになっていると思います。今は比率としてはここも半分、ここも半分くらいです。つまり従来型の重工業に入っていく人とハイテク産業に入っていく学生は半々くらいとご理解いただければと思います。

われわれの高専は5年間です。何が大きな違いかというとな大学受験がないという、決定的教育システムだと思います。良いも悪いも日本の教育は大学受験を1つのゴールに定めて、そこからブレイクダウンしてこのときには何を教えなければいけない、このときは何をしなければいけないかというふうに決めてきます。本当に狂ってきていると思いますが、実は高専にはそれが最大の長所です。いい言い方をすれば最大の長所、悪い言い方をすれば、高校3年生は今頃大学受験に血眼になっていると思いますが、われわれは何を考えているかというとな、高校3年の年明けの2月にスキー教室、スケート教室があります。2月にスケート教室、滑る行事をやっていいのか。普通高校はそうですが、われわれは受験がないので、そういう行事を3年生でやります。これはある意味強み、ある意味、高専の先生から言わせると3年4年は中だる

みになるんだよね。これは人間だれしもそう
なってしまう、あるあるだと思いますが、高
専教育で重要なところだと思っています。

われわれは自主探求をやっています。答え
のない勉強をさせる。受験勉強は何かといつ
たら、答えのある問題に対して、いかに早く
正確に辿り着くかという勉強ですから、受験
勉強はその先には役に立たないとはいいいま
せんが、違ったことで頭を使わなければいけ
ないことを大人になるとわかるのですが、学
校教育はそうっていない。その中高専は答
えのない研究をやろうというのをやらせて
います。自分のテーマを決めてやるという教
育を盛んにやっています。

これはわたしの高専のホームページに載っ
ているわたしの顔写真です。これをスキャナ
で撮って、それをAIが三次元化して、それ
を3Dプリンターに収録する。このようなこ
とは高専生は大好きですぐできます。ところ
がメガネがない。悔しそうな顔をして、今
度は細い眼鏡をかけるようなものにしてみ
ますと持って帰る。こういう探求学習を本
気でやっているのが高専ということになり
ます。卒論もあります。教員はほとんどの
人が教員免許を持っていません。ほぼ全
員がドクターです。p h Dホルダーです。
教員が研究者だということが大きな特徴
です。本質的な探究学習ができること
になります。海外でも研究も熱心にや
っている、ものすごく一生懸命やって
います。これは高専生は英語ができ
ないと昔からよく言われています。

年齢とTOEICの点数をみると、黒い点
は普通の高校、大学の、大学院のトレ
ンドで確かに点数が上っています。普
通の高専は最初は中学校の延長で多
少はいいのですが、受験がないので
3年生になると落ちてしまう。この
ギャップが高専生は英語ができない
という噂になります。今は一生懸命英
語教育、しかも受験英語でない、小
難しい文法は止めようということ
で受験英語をやめてTOEICの
実践英語にシフトした。今1年、2
年、3年、4年、5年、専攻科1
年、2年で普通の高校、大学、
大学院のトレンドの上をいっている。

つまり使える英語をやりたいというこ
とをやっています。その結果、いろ
んな外国に送り出しています。

それから受験がないので部活も一生懸
命やっています。いろいろなコンテ
ストでけっこういい点数を取って
います。1リットルのガソリンで
どれだけ長く走れるかというコン
テストがありますが、これは本田
宗一郎が作ったコンテストです
が、これで二連覇しています。大
学・高専の部で二連覇を達成し
ています。われわれは1リットル
1,500キロですが、ホンダのチ
ームはやはり2,000キロ。やは
り技術には上があるので、彼ら
はまだ頑張れ頑張れと言ってい
ます。ここはひじょうに優秀で
す。プログラミングコンテスト
でも全国で優勝しました。ロボ
コン、ロボット無線では女の
子たちもプログラミングで頑張
っています。留学生もひじょう
に多く、国際寮も完備してい
ます。寮生は今全体の1/3。90
0人のうち1/3の300人が入
っていることになります。

わたしは赴任して全寮制をやりたい。
キャバがないわけではないので
すが、1年間は無理ですが、数
か月間、交代で入れる全寮制
をやりたいといったら、校長
それをやると受験者が減るの
でやめてくださいと言われて、
ちょっとそれを断念しました。
だから寮生は1/3です。これは
さっき言った通り、学部は確
かに少ないのですが、大学院
にいくと八戸高専は青森県
では一番の学校というふう
になります。東北大の大学院
への進学です。

ここからはモンゴルの話をし
ようと思います。モンゴルは
皆さん知っている通り、ロ
シアと中国に挟まれたところ
にある国です。1990年過ぎ
に民主化されました。現
在6校の高専があります。日
本式の高専があります。6校
ありますが、そのうちの1校
は農業系で、そういう意味
ではわれわれは6校のうち
の5校の工業系高専と連携
協定を結んで、相互の交流
をしています。日本人も向
こうに行くし、向こうの学
生もこっちに来ます。

ウランバートルには3校の高
専があります。この前、南
ゴビにある高専に去年の8
月に、

ちょうど嶋村さんと会ったときですが、行きました。ウランバートルから600キロ、11時間。車で行く。誰かが迎えに来てくれる。最初は飛行機だったけれど飛行機は危ないということになって、南ゴビの校長が車で迎えに来てくれた。こういう草原を11時間走りとおしました。彼は意図的に歓待してくれたのですが、草原でバーベキューを作って、これを振舞って、モンゴルを知って欲しい。ひじょうに楽しい校長です。ここで連携協定を結んだりしました。

もう一つ新モンゴル学園というのは一番最初にモンゴルでできた日本式の高専です。ここにいるガルバドラッハさんは立志伝中の人物です。彼は米山奨学金を得て、山形大学に留学しました。その後、東北大学大学院の修士課程に留学し、博士課程の途中で新モンゴル学園を日本に居ながら設立しました。その時に山形の人たちが寄付をしています。最終的には博士を取りますが、このときは博士を取らずに帰国して学園を作って、新モンゴル学園の理事長。今は国会議員になっています。前の校長は今の文科大臣になっているので、ここは政界にもひじょうに影響を持っているところです。彼の娘が現在の学園の理事長をしているトゴスさんです。その息子は、ガルバドラッハさんの孫ですが、その孫が今、八戸高専で勉強しています。そういう意味では日本シンパ、高専というものにひじょうに魅力を感じて、そういう教育をやりたいということを進めています。

八戸高専にはエンケ先生という先生がいますが、彼はモンゴル人です。ただ内モンゴル自治区出身です。これはある意味センシティブ



です。モンゴル人がほとんど住んでいるのが内モンゴルですが、現在は中華人民共和国のテリトリーになります。つい最近、すべての教育がモンゴル語から漢語に変わったところですが、彼は内モンゴル大学を卒業し、米山奨学金を受けて三重大学に留学。そして名古屋工業大学で博士号を取得して、現在は八戸高専の助教です。日本語、英語が堪能です。性格も温厚ですし、ここに米山奨学金のバッチを付けています。今は彼は4年生を連れて企業見学に行っていて出張ですが、ここにバッチをつけている写真を送ってくれました。モンゴル建築史、建築の勉強を研究している先生です。

新モンゴル学園の学生を日本にインターンシップで呼ぶ計画をわれわれはしています。すでに長岡、東京品川区はそういう計画を実現しています。モンゴルからインターンシップで学生を呼んで1か月研修させる。もしいい学生だったとしたら、その学生を日本で就職させましようということのプロジェクトをしています。やはり優秀な学生がモンゴルにはいます。しかも日本語が堪能です。ほぼ日常会話に問題はありません。つまり日本式の教育をしているというのが、新モンゴル学園高専の大きな特徴です。

これはガルバドラッハが建てた新モンゴル学園のところにある銅像の礎石です。一番とあります。その横に書いてあるのは「未来のモンゴル大統領、ノーベル賞受賞者、国連事務総長、オリンピック金メダリスト、アカデミー賞受賞者となる卒業生の君へ、その名を世界に轟かせ、比類なき功績によって人々の心に希望と幸せをもたらした君の栄誉を称え、ここに記念碑第1号の台座を用意します。」すごいですね。このくらいの目標を持って。今モンゴル人の持っているメンタリティは日本人の持っているメンタリティと全然違います。それを学校が後押ししている。

今こんなことをわたしが学生に向かって、これからの日本の首相になれとか、ノーベル賞受賞者になったら格好いい銅像を建ててやると言ったら、たぶんみんな引いちゃいます。

だけど彼らは頑張るって国のためになるんだということをふつうに言います。これはたぶん文化の違い、メンタリテイの違いだと思いますが、そういうところですよ。

わたしはモンゴルがずっと好きで、大学時代から20年以上モンゴルに通い続けています。これはある会合でしゃべった、モンゴリアンファンタスティック カントリー。こういう広い大地に時々石が見えます。その石を研究してユーラシア大陸の出来上がりの糧、プロセスを研究していました。そういう意味で、わたしにとってモンゴルというのは南極と同じです。南極は砂漠、ステップではなくすべて氷ですが、氷の中に石がちょこっ、ちょこっと山があるというのと、モンゴルは砂漠とステップの中に石や山がある。基本的には似たような自然環境というふうにわたしは認識しています。そこの研究をずっとやってきました。

また何かの機会にお話しすることがあれば、南極の話やモンゴルの話をもうちょっと詳しくしたいと思います。モンゴルは昔からシベリアつまりロシアとチャイナ、中国とロシアの間にあります。これは7億5,000万年前の地質図では、その時代からロシアと中国に挟まれた変動帯です。そこで彼らは生き残ってきた大地であるし民族だ。そこのプライドやメンタリテイはひじょうに強いものがあるとわたしは思っています。今は鉱山です。わたしも彼らの手助けをして鉱山の研究も少しやっています。

大学時代にゲレローチーヌ先生が冷戦時代にチェコで学位を取りました。その時のモンゴルはソ連と親和性が強くて、チェコでそれなりの勉強をしました。その当時のソ連の化学技術はひじょうに高かった、1950年代、60年代は。そこで学位を取った。その後ソ連もモンゴルもだめになってきた。彼女が東北大学に1995年に来て、何とか近代岩石学を教えるって欲しいということになって、わたしはその後から何人かの留学生を受け入れてきました。2人の女性は現在モンゴル科学技術大学教授をやっています。その弟子たちが次々と東北

大学の元のわたしの研究室に来て、現在全部で8名のp h Dを出してきました。一番最後は現在ドクターをやっています。

これはすべて国費でやって来たわけですが、できればいろんなプランの奨学金を、企業が奨学金を出して人手不足を解消するためにモンゴルの日本語のできる高専生に進学奨学金を出して、例えば八戸高専で4年生、5年生で学ばせて、そして八戸の企業に就職する。そういうプロセス、メカニズムができればいいなと思っています。米山奨学金の門戸が高専に開かれたわけですが、さらに企業の皆さんから奨学金を得て、モンゴルの学生を八戸高専で勉強させて、そして日本語のできる高度な技術者として地域に貢献できるようになっていければというふうに思っています。いくつかのプランを考えています。インターンシップで受け入れていただく方法もありますし、全額丸抱えが一番ですが、そこまできなかつたら、もうちょっと安い奨学金で勉強してもらい。最後は就職してもらうようなプランも考えています。ぜひ留学生、技能実習生ではありません。ちゃんと高専レベルの技術をもった人をわれわれは養成していこうと思いますので、ぜひ企業の皆さんもその辺りのご理解をいただければ、ご支援をいただければと思っています。

南極の話はまた何かの機会がありましたらさせていただこうと思っています。わたしは南極の話をするときによく出すのですが、2回目の難局のときに意図して撮った写真です。南極で逆立ちをして、これをひっくり返すと地球を持ち上げている、と妻に言ったら、地球にぶら下がっている。これは3回目の調査の写真ですが、また何かの機会にというので割愛します。

モンゴル科学技術大学附属高専の今年の9月1日の入学式です。歌は日本語です。モンゴルの人たちとの付き合いがずっと続いていて、ロータリークラブとしても米山奨学金などでご支援いただける。今後ともこの支援を続けていただければと思っています。併せて八戸高専もどうぞよろしくお願ひします。

記念品贈呈

石橋会長：きょうはお忙しい中ありがとうございました。

嶋守パストガバナーへ 今回のご縁ありがとうございました。このバナーデザインは70周

年の八幡馬です。

司会：例会後、第6回定例理事役員会を行います。理事役員の皆さんはお集まりください。

出席報告						出席委員会																	
第3379回例会（12月17日）				第3377回例会（12月3日）																			
出席率		64.6%		出席率		69.7%		修正出席率		72.7%													
総会員数		68名		出席数		42名		総会員数		68名		メイクアップした人数		2名									
出席義務会員		65名		出席免除会員		3名		欠席数		23名		出席義務会員		66名		出席免除会員		2名		欠席数		18名	

—— 第3380回 クリスマス家族例会 2025.12.24 ——

▶ゲスト

村井精子様、峯 敬子様、妻神美穂子様
小井田恵理様、松本亜矢子様
増田千香子様、前原頼子様、石橋帝子様
石橋星々様、小林由香様、小林雪音様
小林明香音様、築館 檀様、築館真琴様
織田山遥斗様、本間美羽様

会長要件 石橋 信雄 会長



おぼんでございます。
12月24日クリスマスイブの日、家族例会ご参加頂き誠にありがとうございます。

創立70周年記念式典にご参加いただいたパートナーの皆さんにも本日ご出席頂いております。前日の基隆扶輪社歓迎例会、当日の式典懇親会、何かとご面倒おかけしたかと思えます。

あらためて、心より感謝申し上げます。

12月8日夜に震度6強を観測した地震により、八戸市内も多くの被害を受けました。

余震も続く中ではありますが、NTTさんの鉄塔も倒壊の恐れがないということで、避難指示の解除、そして通行止めの解除となり、

昨晚の10時から渋滞が緩和されたようです。メンバーの鈴木さんも大変ご苦労されているかと思えます。早い復旧をお祈り申し上げます。JR八戸線も年内の再開の見込みがたったということで、地震前の日常へ一歩近づいたような気がしております。

神戸の友人からお見舞いの電話を頂きました。その会話の中で、阪神淡路大震災の後、ちょっとした音とか揺れに敏感な反応をし、少し怖い気持ちになるという話がありました。お互い専門家ではないのですが、PTSDだよねと話していたのですが、大人も怖いから、小さい子どもたちはもっと怖い思いをしているだろうという話になりました。

このようなお話は、深沢さんにお聞きした方が良いかと思えますが、フランチェスコ会長の「ロータリーの友」の記事を読んで、大げさかもしれませんが、傷ついている大人や子どもたちに寄り添う気持ちが大切なのだなあと感じた次第です。

ひとつ嬉しい報告をうけました。紺野さんからお聞きしたのですが、小菊荘の源寮長から、「八戸三菱会様から今年もクリスマスケーキ届きました」とご連絡があったそうです。

メンバーの夏川戸さんのご厚意かと思えます。小菊荘の皆さんは、今晚きっと楽しいクリスマスイブをお過ごしでしょう。私も大変嬉しい気持ちになりました。夏川戸さんと八戸三菱会様に感謝いたします。

本日は、クリスマス家族例会、どうぞ楽しい時間をお過ごしください。

以上、会長要件です。

ありがとうございます。

幹事報告 中村 稔彦 幹事



- IM開催延期のお知らせ
- 新年会について
1/14(水)18:30~
グランドサンピア八戸
- 事務局 年末年始休暇について 12/27(土)~1/4(日)

